

200/300シリーズマネージドスイッチのCPU使用率

目的

CPU使用率は、使用中のCPUの量を調べる診断ツールです。CPU使用率が高すぎると、スイッチからの応答時間が遅くなる可能性があります。

このドキュメントでは、200/300シリーズマネージドスイッチのCPU使用率を使用する方法について説明します。

適用可能なデバイス

- SF/SG 200およびSF/SG 300シリーズマネージドスイッチ

[Software Version]

- v1.3.0.62

CPU使用率の有効化と表示

ステップ 1 : Web設定ユーティリティにログインし、Administration > Diagnostics > CPU Utilizationの順に選択します。CPU Utilizationページが開きます。

CPU Utilization

CPU Utilization: Enable

Apply

Cancel

Refresh Rate: No refresh
 15 sec.
 30 sec.
 60 sec.

CPU Input Rate: 0 (Frame/sec)

ステップ 2 : CPU使用率情報を編集するには、CPU UtilizationフィールドのEnableチェックボックスにチェックマークを付けます。

ステップ 3 : Refresh Rateフィールドのオプションボタンをクリックします。リフレッシュレートは、CPU統計情報がリフレッシュされるまでの時間 (秒単位) です。時間間隔ごとに新しいサンプルが作成されます。

注 : CPU Input Rateフィールドには、CPUへの1秒あたりの入力フレームのレートが表示されます。

ステップ 4 : Applyをクリックして新しいリフレッシュレートを適用し、CPU使用率のサンプリングを開始します。CPU使用率はグラフで表示されます。Y軸は使用率のパーセンテージで、X軸はサンプル数です。

Apply

Cancel

- Refresh Rate:
- No refresh
 - 15 sec.
 - 30 sec.
 - 60 sec.

CPU Input Rate: 0 (Frame/sec)

Y axis is CPU Utilization in Percentage. X axis is sample number.



翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。